利用促進・活性化 取組事業の目標値 (参加者数・利用者数)の測定について(案)

令和5年5月9日(火)

1 目的(第2回振興部会より)

沿線地域の各団体は、事業毎に目標値(参加者数、利用者数等)を設定して利用促進・活性 化に取り組み、実績を把握しながら、事業効果の検証を行い、次の事業を展開していく。

- 2 大糸線利用者数の測定方法(案)
- (1) 各取組事業の測定方法

測 定 方 法(案)

- ① 事前の参加申込、申請等の際に、利用人数、乗車区間等(以下「人数等」)を把握する。 申込、申請等の様式に交通手段、乗車区間等の項目を設ける。
- ② 交诵手段、乗車区間等の把握が困難な場合は、駅関係者等へのヒアリングや参加者等 を対象としたアンケート調査により、人数等を把握する。
- ③ 事業終了後、主催団体は、インターネットの指定フォームから、人数等を報告する。
- ※報告のためのフォームは、糸魚川市が作成し、定期的(毎月上旬)に、糸魚川市から各団 体へメールにより、報告を依頼する。
- ④ 事業毎の利用者数増加への効果を検証し、今後の事業の継続、改善等を検討する。

利用促進·活性化取組事業

- ・ウィキペディアタウン in 大町
- ・松本・安曇野サイクルロゲイニング
- ・駅からハイキング
- ・リゾートビューふるさとおもてなし事業
- ・大糸線利用 e-バイクレンタルプレゼント
- ·会員福利厚生(運賃半額助成)
- ・大糸線を活用したツアー
- ・乗車スタンプラリーキャンペーン
- ・輪行バッグ貸出
- ・大糸線応援隊(ファンミーティング、花い・シーフードトレイン っぱい運動、駅舎清掃等)

- ・大糸線「鉄道×温泉」湯めぐり手形すたんぷ らりい
- ・トキてつ×ほくほく×大糸線 コラボラリー
- ・企画列車(サイクルトレイン・こども車掌体 験)
- ・大糸線利用促進事業助成(イベント助成)
- ·大糸線定期券購入費助成

〈沿線一体事業〉

- ・モバイルスタンプラリー

(2) 年間を通しての運行区間の測定方法(案)

利用促進・活性化のための事業効果を検証するため、長野県から提案のあった年間を通しての「乗降客数調査」の必要性を検討する。

実施に向けては、今後、実施体制、実施方法、業務委託、費用負担等の協議が必要である。

測 定 方 法(案)

- ① 事業開始前に平日、休日の運行区間の「乗降客数調査」を行う。 開始前の調査が難しい場合は、JRからのデータ提供、各自治体等で調査した直近の データを活用する。
- ② 事業期間中、定期的に年間数回程度、平日、休日の運行区間の「乗降客数調査」を行う。
- ③ 事業<u>開始前と期間中</u>の調査結果を比較し、年間を通して、利用促進・活性化による取組が利用者数増加にどの程度の効果があるのかを検証する。
- ④ 乗降客数調査に合わせて、「どのような人」「いつ」「どこから」「どこまで」「どのような目的で」「どのような交通手段を活用して」等のパーソントリップについて、QRコード等を活用して調査し、大糸線の利用動態を把握する。

調査結果を検証することで、今後の有効な利用促進策を検討する。